

認定社会福祉士認証・認定機構

1 認証・認定機構とは

社会環境の変化に伴い、地域住民への社会的援助ニーズが増加・多様化し、その問題解決は複雑・困難化してきています。

これらに対応するために創設された認定社会福祉士制度は、高度な知識と卓越した技術を用いて、個別支援や他職種との連携、地域福祉の増進を行う能力を有する社会福祉士としてのキャリアアップを支援し、実践力を担保する仕組みです。

社会福祉士の実践力に応じて「認定社会福祉士」「認定上級社会福祉士」の2段階の資格を設定しています。

- 認定社会福祉士認証・認定機構は、認定社会福祉士並びに認定上級社会福祉士の認定、及び認定制度の対象となる研修を認証する、公正中立な第三者機関として2011年10月30日に設立。
- 本機構は認定社会福祉士制度の運営を通して、社会福祉士の質の向上を図り、もって我が国におけるソーシャルワークの一層の発展と国民の福祉の増進に寄与することを目的とする。

2 会員

■社会福祉の増進に寄与する団体であって、この機構の目的に賛同して入会した団体

■現会員(2014年10月現在) 8団体

日本社会福祉士会／日本医療社会福祉協会／日本ソーシャルワーカー協会

日本社会福祉教育学校連盟／日本社会福祉士養成校協会／日本精神保健福祉士養成校協会

全国社会福祉法人経営者協議会／全国社会福祉協議会中央福祉人材センター

認定社会福祉士制度の検討の背景と経緯

■参議院厚生労働委員会附帯決議(2007年4月26日)

衆議院厚生労働委員会附帯決議(2007年11月2日)

社会的援助のニーズが増大していることにかんがみ、重度の認知症や障害を持つ者等への対応、サービス管理等の分野において、より専門的対応ができる人材を育成するため、専門社会福祉士及び専門介護福祉士の仕組みについて、早急に検討を行うこと。

- 2008年度 日本社会福祉士会が、ソーシャルワーカーの職能団体、ソーシャルワーク教育関係団体、経営者団体等からなる研究委員会を設置。研究事業としてシステムのあり方について検討開始
- 2011年10月 「認定社会福祉士 認証・認定機構」を設立
(ソーシャルワーカーの職能団体、ソーシャルワーク教育関係団体、経営者団体 等で構成)
- 2012年度 研修認証を開始、経過措置対応としての「特別研修」を実施
- 2013年度 経過措置のスーパーバイザー登録を開始、認定社会福祉士認定を開始
- 2014年度 認定社会福祉士の登録の開始

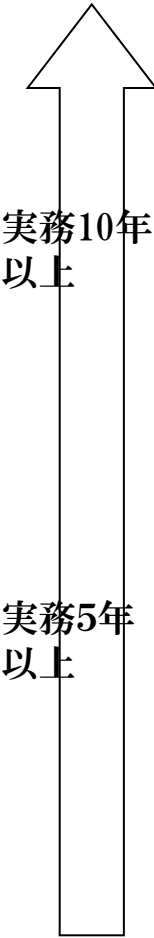
認定社会福祉士制度の概要

資格	認定社会福祉士（分野）	認定上級社会福祉士
活動	<ul style="list-style-type: none">・所属組織における相談援助部門のリーダー・高齢者福祉、医療など、各分野の専門的な支援方法や制度に精通し、他職種と連携して、複雑な生活課題のある利用者に対しても、的確な相談援助を実践。	<ul style="list-style-type: none">・所属組織とともに、地域（地域包括支援センター運営協議会、障害者自立支援協議会、要保護児童対策協議会等）で活動。・関係機関と協働し、地域における権利擁護の仕組みづくりや新たなサービスを開発。・体系的な理論と臨床経験に基づき人材を育成・指導。
役割	<ol style="list-style-type: none">①複数の課題のあるケースへの対応②職場内のリーダーシップ、実習指導③地域や外部機関との窓口、緊急対応、苦情対応④他職種連携、職場内コーディネート等	<ol style="list-style-type: none">①指導・スーパービジョン②苦情解決、リスクマネジメントなど組織のシステムづくり③地域の機関間連携のシステムづくり、福祉政策形成への関与④科学的根拠に基づく実践の指導、実践の検証や根拠の蓄積
分野	高齢分野、障害分野、児童・家庭分野、医療分野、地域社会・多文化分野	自らの分野における実践に加え、複数の分野にまたがる地域の課題について実践・連携・教育
認定要件	<ol style="list-style-type: none">①社会福祉士資格②ソーシャルワーカーの職能団体の正会員③相談援助実務経験5年以上④定められた経験目標（経験すべき実務）の実績⑤認証された研修の受講 研修：20単位以上 スーパービジョンを受ける：10単位以上 ※更新制（5年）	<ol style="list-style-type: none">①認定社会福祉士と認定されていること②ソーシャルワーカーの職能団体の正会員③認定社会福祉士資格取得後相談援助実務経験5年以上（資格取得後最低10年以上）④定められた経験目標（経験すべき実務）の実績⑤認証された研修の受講 研修：20単位以上 スーパービジョン 10単位以上（実施5単位、受ける5単位）⑥教育、研究、社会活動の実績⑦口述試験、論述試験 ※更新制（5年制）
個人認定	上記要件を満たすことを「認定社会福祉士認証・認定機構」が審査 審査に合格した者の登録は、登録機関（日本社会福祉士会）に行う	
研修認証	要件を満たす研修（職能団体、学校・養成施設、都道府県研修機関等が実施）を「認定社会福祉士認証・認定機構」が認証	
SVer登録	要件を満たした者を「認定社会福祉士認証・認定機構」が審査し、合格者を登録	

社会福祉士資格取得後のキャリア形成と養成体系

■認定社会福祉士制度における実践力育成の3つの柱

- ① 実務経験目標... 実務において経験すべき事項を明示。実務経験を標準化し、実践力を向上。
- ② スーパービジョン... 定期的なSVを受け実践力を育成【認定】 SVを行い指導力・説明力を向上【認定上級】
- ③ 研修... 養成課程では学んでいない専門的な知識等を習得【認定】
実践課題に応じた知識習得・実践研究等を通じ、専門的知識の統合・運用を可能に【認定上級】



役割・活動

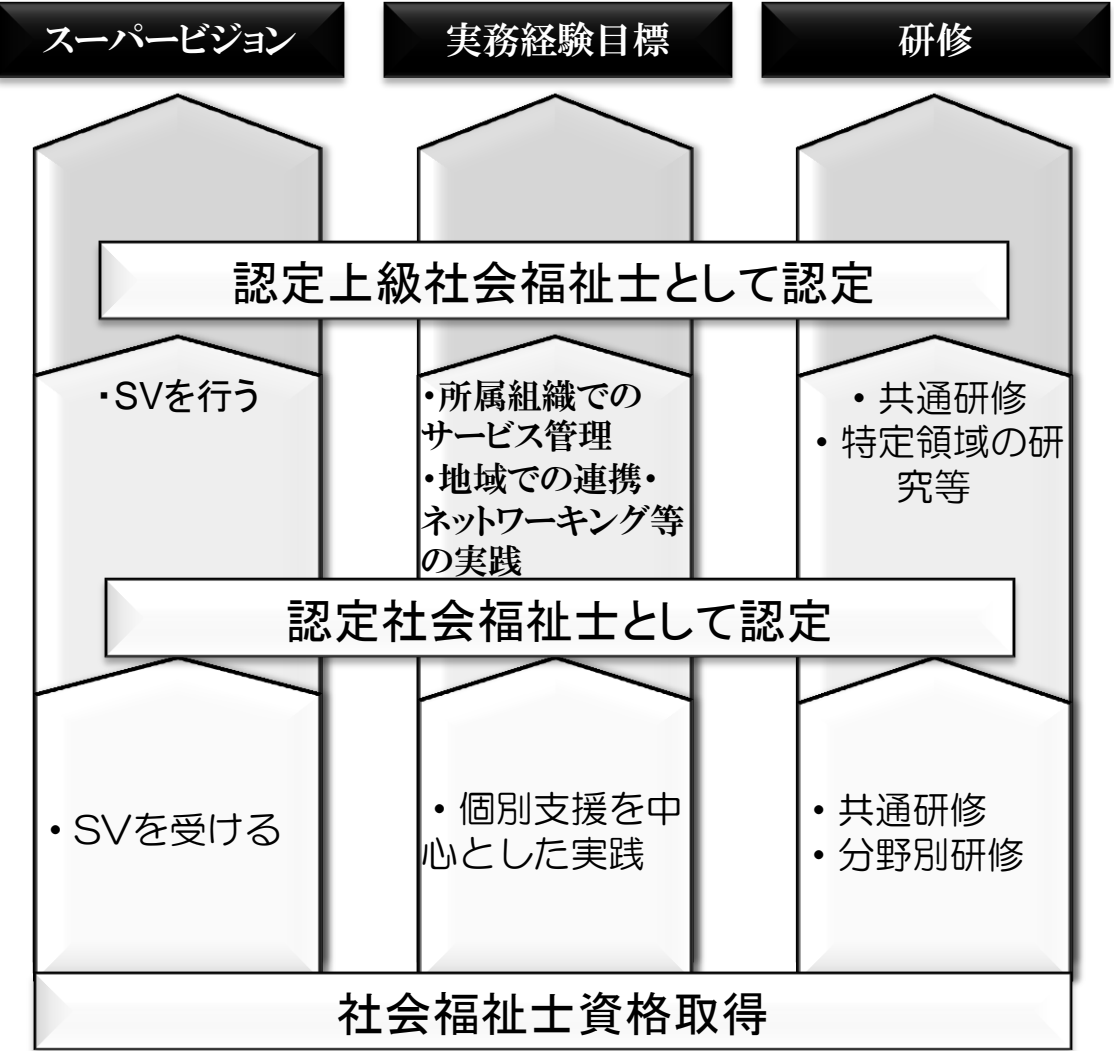
【地域に広がる活動】

- 地域における権利擁護、機関間連携などのシステムづくり、制度の隙間にある課題に対応するサービスの開発
- 組織における苦情解決、サービス管理などの仕組みづくり
- 実践の指導、検証、根拠の蓄積

【所属組織を中心とした活動】

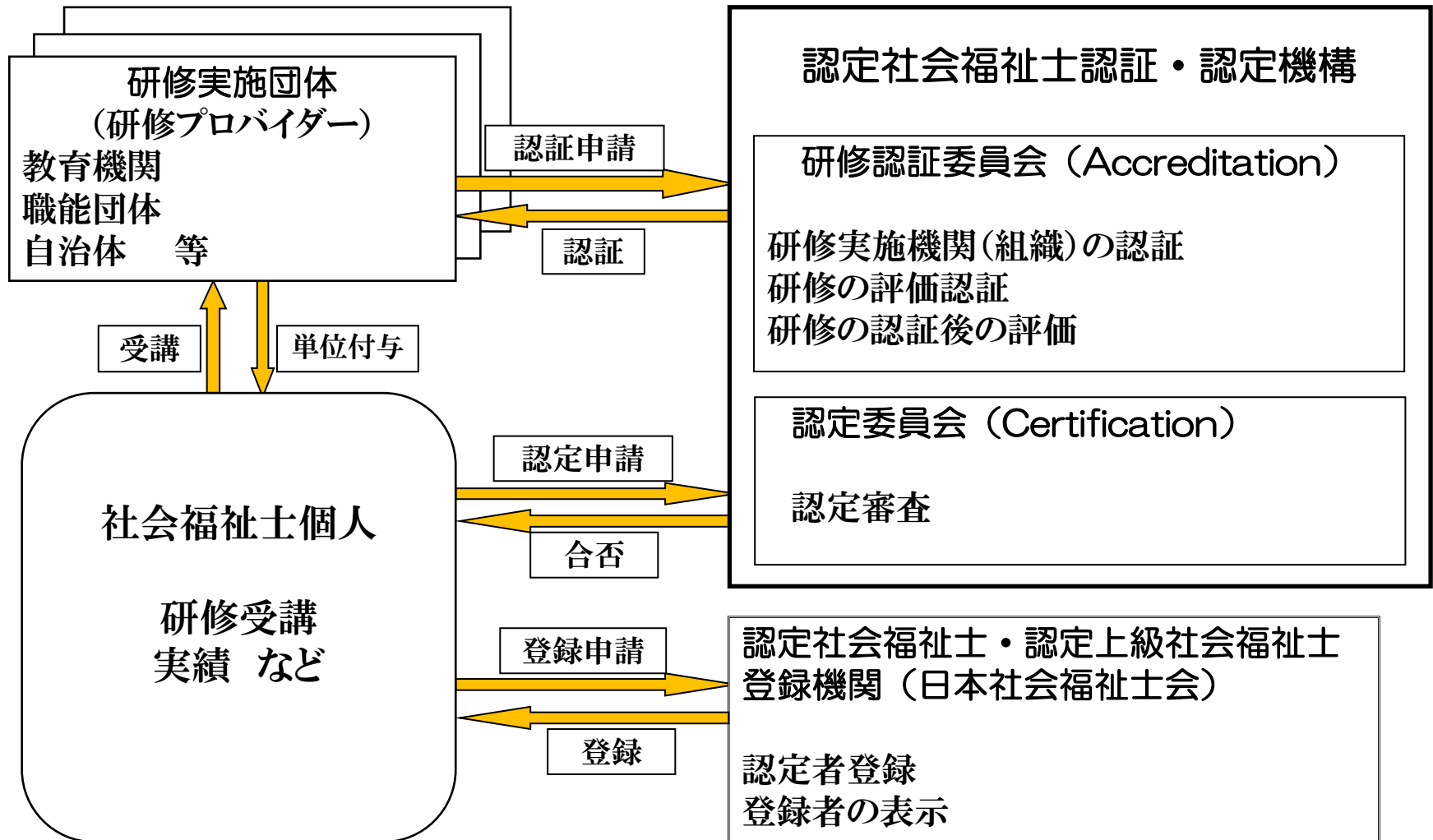
- 複雑なケースへの対応
- 職種間連携のキーパーソン
- 相談援助部門のリーダー

○職場配属



制度の実施体制

- 職能団体・教育団体・事業者団体が協働して制度を運用するよう、認証・認定機構を設立。
- 基準を満たしている研修を専門的な委員会の判断によって認証。職能団体、大学院、学会、事業者団体などによる多様な教育資源を活用。
- 専門的な委員会により、認定社会福祉士等としての要件を審査。



実績（2014年10月現在）

項目	内容及び実績
研修認証	<ul style="list-style-type: none">■研修の実施内容及び条件等を評価し、認定機構が定めた研修認証基準に適合するものを認証する■実績(2012年度から認証を開始)<ul style="list-style-type: none">・認証した科目数:189科目・研修を提供する団体:29団体 (大学院等教育機関:19, 職能団体やNPO等:10)
スーパーバイザー	<ul style="list-style-type: none">■スーパービジョン実績等を評価し、認定機構が定めた登録基準に適合する者を登録する■実績(2013年度から登録を開始)<ul style="list-style-type: none">・登録者数:225名 (実務者:137名, 教員:88名)
認定社会福祉士	<ul style="list-style-type: none">■実務経験や研修受講履歴、スーパービジョン実績を評価し、認定機構が定めた認定基準に適合する者を認定する■実績(2013年度から認定を開始)<ul style="list-style-type: none">・認定社会福祉士:178名(第1期登録者)